

# 驚きの国 ネパール 40年前と今



副題：世界に飛び立つネパールの若者たち。ネパールと日本の課題。

2023年12月7日 ネパールドイツ UAE 日本協会 長谷川 隆

# 経歴とネパールとの関り

- ヨガを習いに大学時代にインドに3か月間、**ネパール22日間trekking**
- **青年海外協力隊**で**ネパール2年間**（果樹栽培）
- **UAE**で**砂漠の植林事業**
- **農薬会社**で**中近東、東欧、アフリカ担当**（**ドイツ語圏**に感銘）
- 農薬、化学品・医薬品会社 勤務
- **43か国訪問。**
- **ネパール訪問9回**
- **ネパール、ドイツ**を中心に**文化交流活動**（音楽、舞踊）
- **ネパールからの留学生、就労者の支援**

⇒ **ネパール ドイツ UAE 日本協会 代表**

# ネパール訪問(9回目)での活動：2023年9,10月/34日間

- ・ヒマラヤ**トレッキング**14日間：ゴークョ5,000m/ 村人、外国人と交流
- ・NPOで**障害者への教育支援**のための学校訪問。スラム街の塾訪問・支援。
- ・東京で在日ネパール人向け格安International School設立支援で訪問  
毎月150円で学べる学校が全国に80校。インドなど5か国にも1校ずつ。
- ・**音楽家との交流**：世界的民族楽器奏者たち/  
シタール、竹笛バーンスリ、弦楽器サランギ
- ・ネパール**民族楽器の博物館との交流** ⇒ **ラジオの単独インタビュー40分**  
国の支援がない中、国中の民族楽器を仲間と無償で収集した館長
- ・**日本語学校3校訪問** ⇒ 日本への特定技能での就労、留学（日本語学校）
- ・**4年生Collegeでの講演**：40年前のネパールと現在の課題
- ・40年前の協力隊時代の友人たち等、**13人に15回、主に自宅に招待された。**ダサイン祭り一緒に。

2023年10月 パンチカールを訪問  
日本からラブグリーンネパールという  
農業開発NPOが入っていた。  
地震で古い家が壊れ、店のある家を建  
てた。村人がよく集まっていた



2023年9月 スラム街の塾を訪問



小学1-3年生で基本が分からないままでいる  
子に基礎を教えることが最重要と言う。

# ネパール



- ・ インド亜大陸が年15cm移動  
ヒマラヤ、チベット形成
- ・ 似た言語：語順等 (not 学術的言語圏)  
日本、韓国、チベット、  
インド、バングラ、スリランカ、  
パキスタン (サンスクリット系)  
フィンランド、ハンガリー、等  
(チンギスカン覇権域も)
- ・ お釈迦様の生まれた国  
⇒ 仏教のアジア伝来
- ・ ヒンズー教(インド、インドネシアのバリ島も)  
⇒ カースト：インド系が上位  
多神教、抒情詩ラーマーヤナ

# ネパール ヒマラヤ



アフリカ大陸からインド亜大陸が毎年15cm移動。  
ユーラシア大陸にぶつかり、押し続けてヒマラヤ山脈ができ、  
チベット高原ができた。

⇒ **モンゴリアン系**と アーリアン (インド) 系が混じり**多民族**

ヒマラヤの絵： 30-40年間、ヒマラヤに通って絵描きが描いたもの



# ヒマラヤ ランタン Trekking 1979と2022



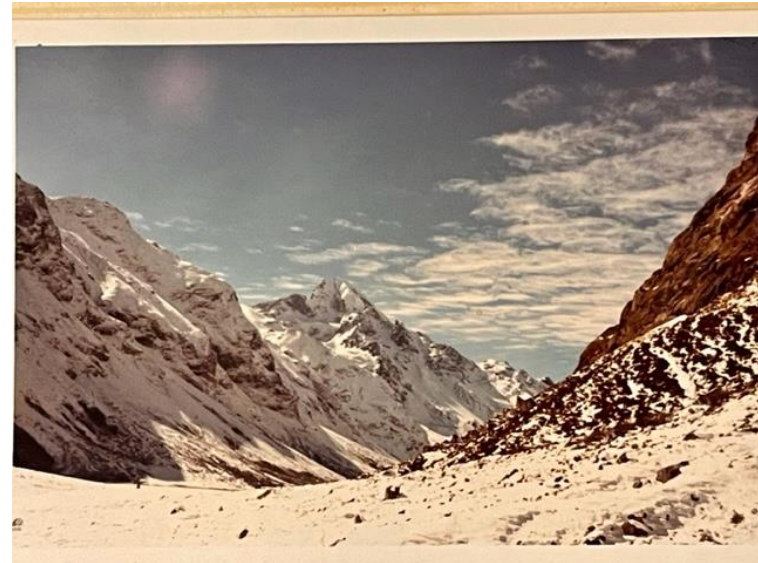
左：ランタン・ゴサインクンド：学生時代に22日間歩いた。標高4600mの峠も超えた。  
ランタン村は2015年の大地震でヒマラヤから氷河が崩落し、村は全滅し多数の死者がでた。

中：外国の援助でランタン村に新たに20軒以上のホテルが建てられた。若い家族が宿を経営。  
若い主人はタイで英語で大学4年間留学した。夫婦はSNSで知り合って結婚。違う民族間。

右：チベット系のシェルパの宿。チベット仏教で不殺生。  
女将はお酒チャンを作り、20L担いで、売り歩く。私が3日かかる道を一日で。



# ヒマラヤ ランタン谷 1979年12月



# ヒマラヤ ランタン谷 2022年6月



世界一美しいと謳われるランタン谷



左奥の谷を行くとランシサ・リ



ランタン・リルン7223m



キムシュン6745m



ヒマラヤと花畑、犬、ガイド  
4,000mを超えた地点。大鷲が。



シェルパの村：  
大斜面にチベットから移り住んだ

# ヒマラヤの麓の村



カトマンズのバグマティ Boarding school の理事長室に飾ってあった絵。  
2022年6月には400人の児童生徒の前で日本とネパールの歌を歌い、笛を吹く機会があった。  
右はシェルパの村：標高 2,563m



ダウラギリ | (8172m)



ニルギリ アンナプルナ | アンナプルナサウス

10km以上の長いケーブルカー建設計画が始まろうとしている。

# ネパール ヒマラヤ



アンナプルナサウス7219m、ヒウンチュリ6441m、マチャプチャレ6993m

アンナプルナの西側はムスタン王国だった。河口慧海がチベットに潜入したルート。

⇒ 今は中国から軍事的に使える広い道路が急ピッチで建設されているという。

# ネパール ヒマラヤ



ダウラギリ



マチャプチャレ



# エベレスト方面 2023年10月



アマダブラム 6,856m

シェルパ語で「母の首飾り」

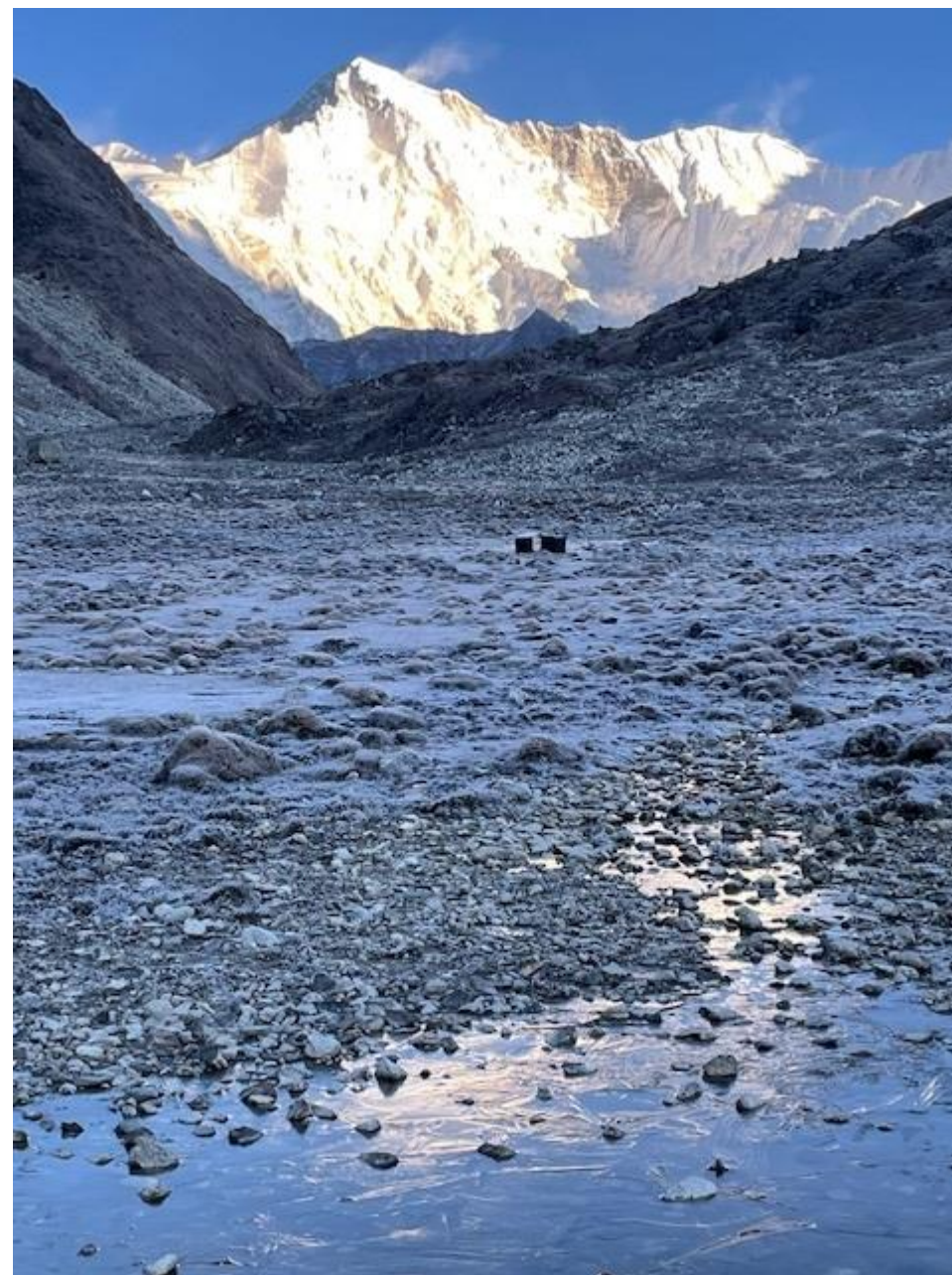


ナムチェバザール 3440m

# ゴークョ 2023年10月



ルクラ空港から8日目の朝  
ゴークョ 4,790mからゴークョ・リ 5,360mに向かう  
途中



チョーオユー 8,188m ゴークョより



# ゴークィヨ 2023年10月



ゴークィヨ 4,790mからゴークィヨ・リ 5,360mへの途中

# ゴークョトレッキング 2023年10月



ゴークョ 4,790mのホテルの3世代  
周りに樹木はなく燃料はヤクの糞だけ



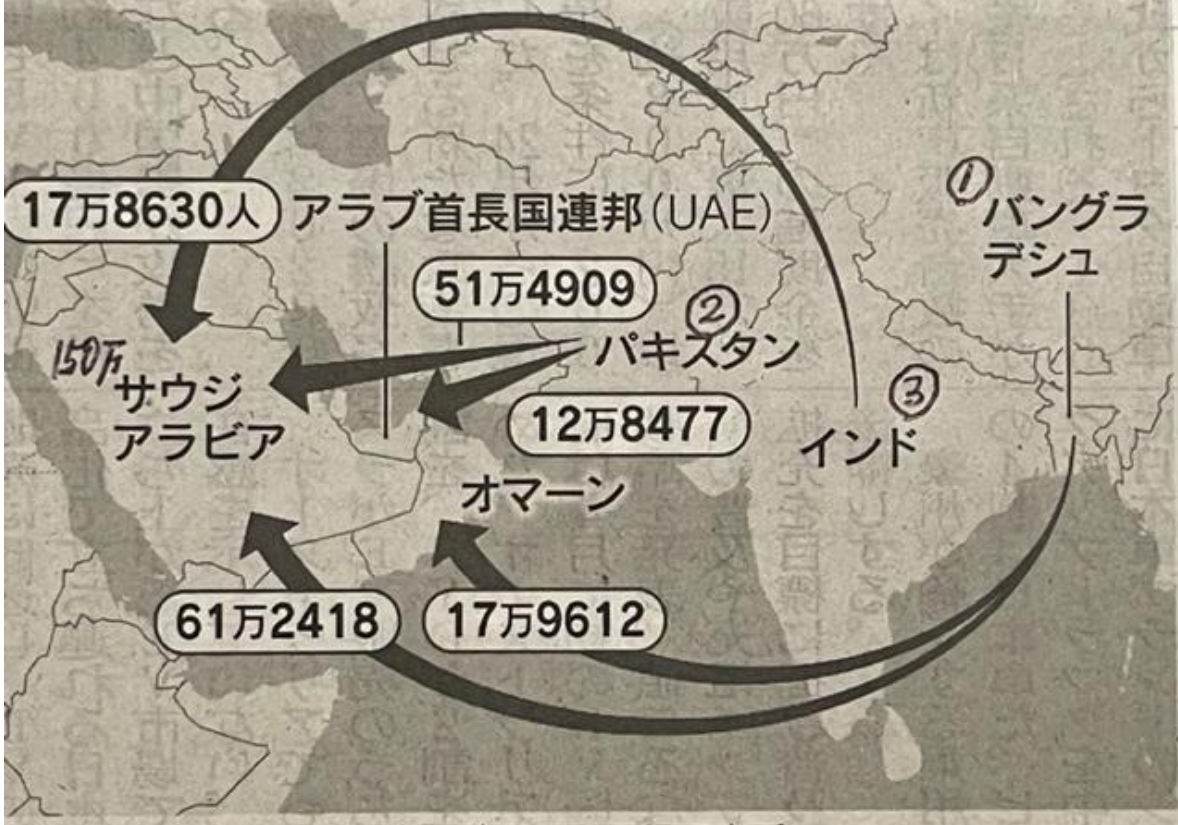
ゾッキョが急坂を何日も荷運び

# ネパールの課題

1. **輸出産業が乏しい**（輸入が輸出の9倍）
  - ⇒ **就職先がない**：不動産、銀行、携帯会社のみ発展。
  - ⇒ **外国からの投資が少ない**：インフラ脆弱。祭りが多く、長い。
2. **外国に多くの若者が出る**。50-60万人/年。
  - \* 出稼ぎ送金がGDPの27%、（一世帯当たり年8万円）
  - ⇒ **高齢者の孤立**。暖かい家族文化の消失。
3. **農村の過疎化**。都市では少子化。土地高騰。
4. **社会保障が乏しい**（健康保険、年金）。失業・介護保険なし。
5. **中国の影響**：政治、経済（投資）、宗教（チベット仏教）



主なアジアの移民回廊(2022年)



**ネパールからの出稼ぎ：人口比率は南アジアで突出。**  
200万人が140か国以上で働く。在日14万人。  
GDPの3割ほどが出稼ぎ送金による。

GDPの3割を超える送金：トンガ、サモア、キルギス

アジアの新規出稼ぎ：464万人（2022年）

- ・バングラデッシュ：113万人で最大
- ・フィリピン：82万人（2019：160万人）

**ネパールも下記と同様の出稼ぎ先傾向**

**サウジアラビアの受入れ**

- ・バングラデッシュから：60万人超
- ・パキスタンから：50万人超

**マレーシアの受入れ**

- ・バングラデッシュから：5万人超
- ・インドネシアから：4万人超

**欧米の受入れ：米国、英国、カナダ**

- ・インドからが最多

**米国のハイテク技術者受入れ**

- ・インドから：20万人（コロナ前2019年比34%増）

多くの送金を受けた国

1. インド
2. 中国
3. フィリピン

# ネパールのよいところ

1. **家族や親戚の深いつながり。**

祭りが多い。長期休暇。

結婚式・一周忌など大勢集う。踊り好き。

2. **英語力**： 私立の小中高では全科目英語で教える。その先生がいる。

3. **国際性**： 世界140か国くらいに在留者がいる。

4. **若者が多い**： 23歳以下の**若者**が人口の半分。



# ダサイン祭り： 家族・親戚が集う10日間



# ネパールから見える日本の課題

1. **低賃金**（先進国で）：**30年間、GDP、給与が上がらず、円安。**

⇒ **一人当たりGDPは世界31位**

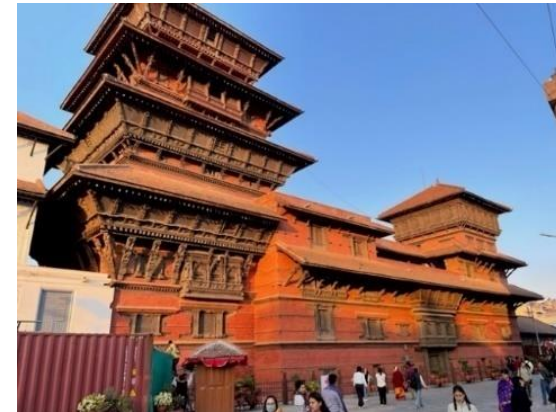
⇒ **ネパールへの投資が減った。中国から50%、日本は0.8%**

⇒ **ネパールへの日本人観光客が減った。特に若い人。**

2. **日本語習得に2年以上かかる**：**漢字が2000も**

3. **難しい就職**：高い日本語能力を求める（**N1かN2以上**）

4. **英語ができない日本人、日本社会**



## 日本の移民受け入れはとても低い

### 各国の移民割合 (2021) %

カナダ	21.3
ドイツ	16.2
英国	14.0
米国	13.7
フランス	12.9
日本	2.3



## 移民受入れが多い国 ⇒ 経済が発展 賃金上昇

国	人口	出生数/年	移民・難民受け入れ、賃金など
日本	1億2500万	74万?	<p><b>初任給：スイスの3分の1</b></p> <p><b>時給：米国の3分の1。豪州の2.5分の1</b></p> <p>インドネシアで介護1000人募集し、100人のみ応募 難民受け入れ20人程/年 のみ</p>
ドイツ	8000万	80万	<p><b>移民受け入れ推進</b></p> <p><b>難民67万人受入れ</b> (2016年末時点)</p>
カナダ	4000万		<b>50万人/年の移民</b> を受け入れる
UAE	1000万		<b>90%が外国人労働者。先進国。</b>

# 40年前 協力隊時代 ボジプール

家族と大勢の村人で田植え：標高1400m



町から歩いて2日かかる標高1400m程の大斜面の山の村で2年間生活した。  
**電気、ガス、水道、便所、風呂、電話、自転車も新聞もない**村だった。ラジオ、ランプあり。  
病院も医者も看護師も産婆さんもなく、祈禱師が生死判断。

⇒ **今は、**車の道路ができ電気も来ているという。若者が村を離れ田畑は荒れたそう。

# 40年前 協力隊時代 ボジプール



## 現在は：

カトマンズでも田舎でも、会う多くの人が、兄弟、子供、親戚などが  
外国で学んだり、働いている、と言う。

携帯電話をほとんどの人が使っている。

# 40年前 協力隊時代 ボジプール



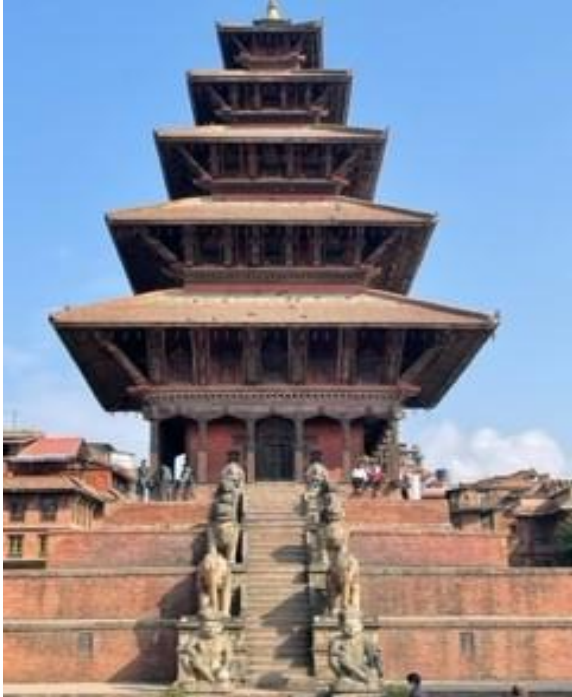
ボジプールの田植え、稲刈り風景。

30人ほどの女性が一斉に植える。男は耕す仕事。

田植えと稲刈りの時期には、結婚式はなく、  
その次の月に一斉に結婚式が行われる。  
年に6つの月で結婚式が行われた。

⇒今は都会では緩くなったとか。

# ネパール:40年前の協力隊時代 そして今は



村のお婆ちゃんは昔、  
片道10日、山々を越  
えてカトマンズに巡礼  
に行ったそうだ。



40年前：家族と大勢の  
村人で田植え準備

トレッキングに行くのは外国人だけだった

⇒ 今はネパール人もとても多くなり、  
学生が30人のグループで7-8日行く。

昔、カトマンズはリキシャがのどかに行き来。

⇒ 街は車とバイクで激しい渋滞に。

⇒ インド製バイク、  
中国や韓国の携帯、PC,テレビ等が  
ひしめく。

# ネパール: 40年前の協力隊時代



カトマンズ近郊の稲刈り後の風景  
今は家が密集し、河は黒く悪臭を放つ

タライ平野 農村 牛車



カトマンズ近郊

# ネパール：40年前の協力隊時代

毎週土曜の市：

4時間山道を歩いて売りに来ている人も多かった。

ショウガ等



鶏



たばこの葉



干し米

# 店 現在 あまり昔と変わらない？



カレー粉材料の店



チトワンのマウルカリカの山のお寺に登る途中の出店



祭り： 40年前 今も変わらず



ティハール祭り 10月後半 菜の花畑で



7月のガイジャートラ



ダサイン祭のティカ

# 祭り：現在 ガンドルン村(1951m) ヒマラヤの麓

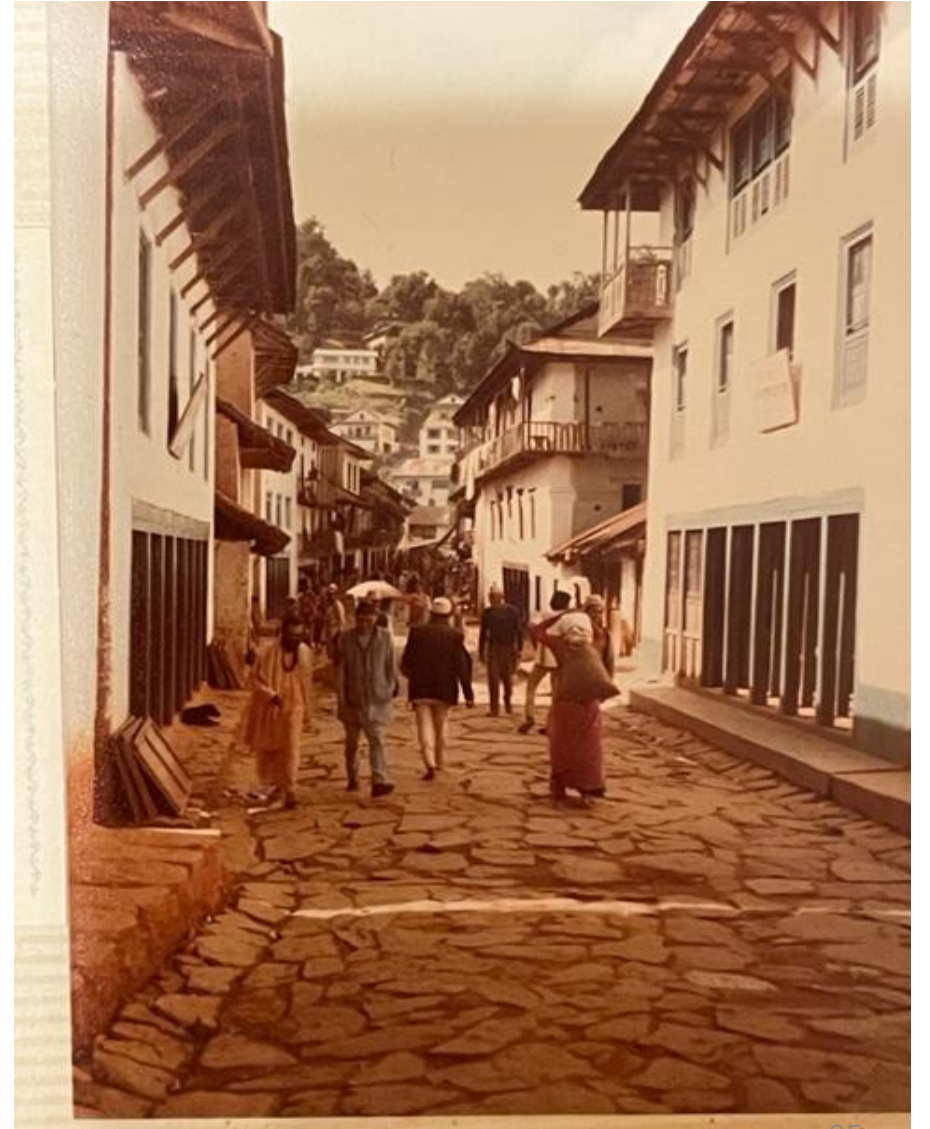


10月後半 ティハール祭の踊り： 朝7時から夜10時まで



チトワン（タライ平原）の  
ティハールの踊り

# ネパール: 40年前の協力隊時代



ボジプールのバザール 郡都 標高1500m 便所・電気なし

# ネパール：40年前の協力隊時代



毎日往復4時間かけ向こうの山の上のバザールに通う大根種子農家。

家畜の糞でガス灯、ガスコンロも作っていた。

人が手を付けた食べ物は他の人は食べられない習慣：ジュート

# ネパール：40年前の協力隊時代



大地主の苗木屋に一家住込みで働く。  
月に2000円



右から、私の馬、ピャウリ村で果樹苗木を育成する大地主、  
私、馬子、地主の使用人と弟さん  
私の**使用人の給料は月2500円**だった。

給与は公務員1.5万円/月、私は220ドル（約6万円）。 37

泊りの村巡回時に、  
山の上の宿で夜中に  
馬が畑のトウモロコ  
シを食べつくして、  
宿の主人が朝、ひど  
く怒っていた。

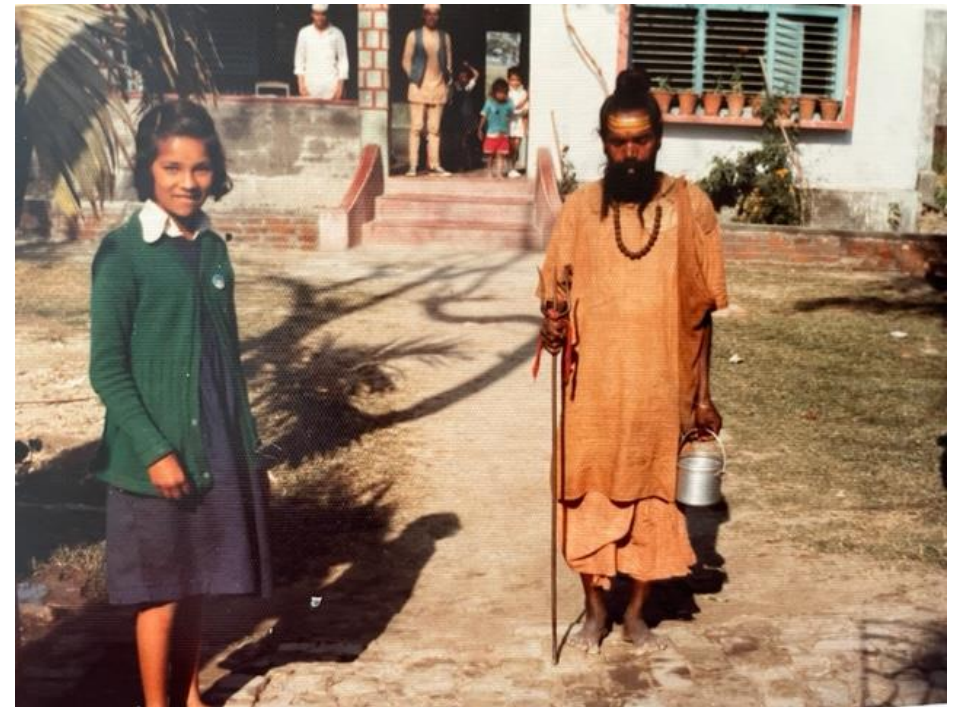
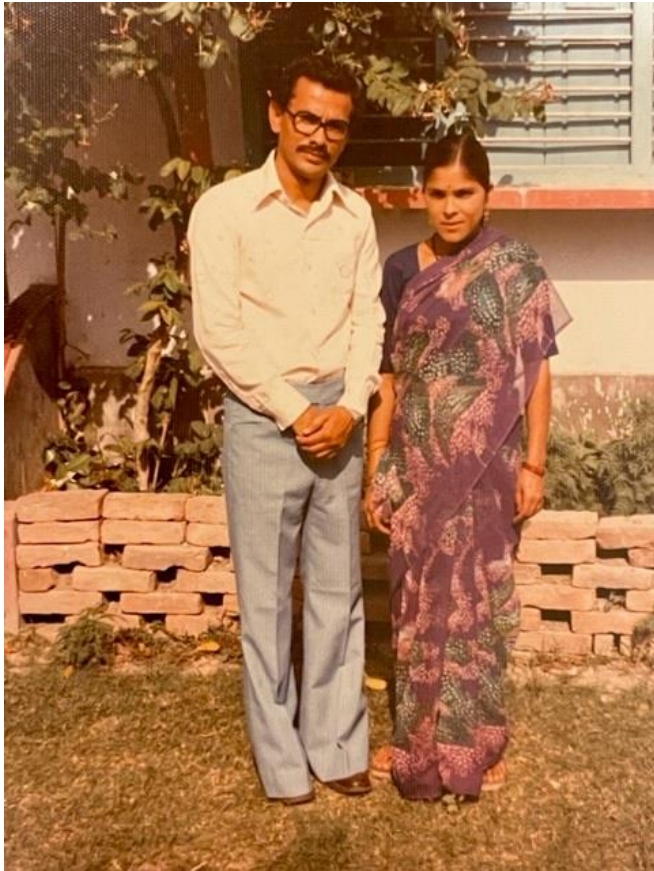
村人が1週間探し回っ  
て、8万円で買った馬。

# ネパール：40年前の協力隊時代 そして今

ボジプール郡の大地主で果樹の苗木生産者、トーランさん。ヨガ愛好者。15で奥さんは結婚。

現在： 長女は映画100本作製、次女は夫がアメリカで携帯会社勤務、三女は英国で医師。

長男は、医療界の大御所。トーランさんは家が4か所にある。



# ヒマラヤの麓の結婚行列 村長の息子の



純白の馬に乗る花嫁。山道を7時間、演奏しながら結婚行列。ヒマラヤを仰ぎ  
花婿の村人が連れ添う。

標高1500mから1000mの谷、さらに1900mの丘陵まで。

花婿の村での祝宴は、田圃に丸座になって人々が座り、給仕が葉っぱの皿に  
ワシヅカミにご飯、肉を運ぶ。ただ食べ、食べ終わると解散する。

40年前の協力隊時代



16-17位で結婚。  
近所の新婚さん

# カトマンズでの結婚式 : ネワール族 2022



花嫁と母、親戚たち。初日



サリーで着飾った招待客



数時間も楽しく踊る  
11階建てビルの屋上

数百人が招待された。結婚式3日間の初日は花嫁だけ。3日目に花婿は出席し、100人くらいで小規模に。

40年前、複数の女性と結婚している男性がいた。2号さんの立場は弱く。年一回だけ会うことも。今は法律で禁止。



儀礼 毎朝の床塗り： 土間の床、壁下側を、神である牛の糞を水で溶いて塗っていた。

村の祈祷師が死を予言： 祭礼師が死ぬと予言すると病人の家族は食事を与えず泣きくずれる。

葬式：人が死ぬとその日のうちに担いで川に運び燃やして川に流した。



ブラーマン（祭礼者）を家に呼び、お経を3-4時間あげてもらう。葉で作った皿に御馳走など盛る。 40年前



2022年一回忌。ブラーマン（祭礼者）が経を3時間あげていた。

30人ほどボジプールの山村から移ってきた人たちが集まっていた（2階でも経をあげて華やかな飾り）

# ネパール： 40年前



## ・ボジプール郡の特産

手で食事をする際に手を洗ったり、水を飲むのに**水差し**を使う。

ククリという腰に差している**小刀**も特産品。**柑橘**も。

ダランの**町へ40-50kg担げば4-5日かかる**。

・イギリスの軍隊に**ゴルカ兵**として20-30年出稼ぎにシンガポール、香港、UKに

# ネパール: 40年前の河渡り



チベットからヒマラヤを縫って流れるアルン河を舟で渡る。

泳げる人はいない。



1980年頃、吊り橋もできてきた。

アルン河の激流の上。

揺れて長く怖い。

水嵩の多い雨季（6-9月）はケーブルに掛かった籠に乗り、手でロープを引っ張り上がる。籠に8人乗れた。

2日間歩いて町に出る際、この川べりの小屋で泊った。壁もなく月を眺めて寝た。

# ネパール： 40年前



山羊を連れたピクニックで火を熾して：

山の村で7-8人で**山羊を1匹連れて**ピクニックに。山の斜面の林に行き、火を焚いて山羊を料理して食べた。料理前に**山羊の脳みそ**を生で私にくれて、食べた。



ボジプールキャンパスの**サリー姿**の女学生たち (1982年)

# ネパール： 40年前



村の茶屋：毎朝、男どもは茶屋に雑談に来ていた。

一方、女性は朝から家事に精を出し忙しそうだった。

私も毎朝茶屋に通い、村人とおしゃべりした。

山の村の茶屋からは時には眼下に雲が流れていた。

人々はいつも出会うと、両手を合わせて**ナマステ**と挨拶。



小麦こがしの粉だけの食事のポーター：

1979年のランタントレッキングで、3-4日荷物を担いでくれたポーターは、食事は自分で袋に持ってきた小麦こがしを水で練って食べるだけだった。

おいしいか聞いてみると、おいしいと言ってニコツとした。

また4600mの雪の峠越えにポーターが裸足のままでは無理だろうと、靴を用意してあげた。

# 竹笛バーンスリ

世界的奏者：ラーマンさん

国民的愛唱歌：  
レッサンフィリリ



[https://m.facebook.com/story.php?story\\_fbid=pfbid0g2DX7BGE5GKYWDJfxgEW8hxeTcAf87Mt3pp7an1CpafZMsH7EN5MuDzNGBZpgGqFI&id=100001087144882&mibextid=Nif5oz](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid0g2DX7BGE5GKYWDJfxgEW8hxeTcAf87Mt3pp7an1CpafZMsH7EN5MuDzNGBZpgGqFI&id=100001087144882&mibextid=Nif5oz)

# 40年前



**シタール(かぼちゃ製)** : インド音楽の楽器  
40年前の協力隊時代にも演奏してもらった。

家に泊めてもらったことも  
スイスに結婚して住んでいられた。  
今もカトマンズで指導。  
東京のススマさんのお弟子さん。

踊り手 (インド)



タブラ (小太鼓)



**アメリカ平和部隊の150人のパーティーで  
インド舞踊とタブラ太鼓の演奏。  
私もネパールの歌を歌った。**

10年ほど前

左から、

- ・ 金属器楽器（擦って音出し）
- ・ タブラ（小太鼓）
- ・ マーダル（首掛け太鼓）
- ・ バーンスリ（竹笛）

ハイヤットリージェンシー  
ホテルにて





# シタール奏者 2023秋



シタールは毎日調弦に1時間、  
練習は8時間必要と言う。



80歳の父親はカトマンズ大でシタール指導。  
日本に何度も公演に行っている。

# 40年前 協力隊時代 ボジプール



ボジプールの田植え、稲刈り風景。

30人ほどの女性が一斉に植える。男は耕す仕事。

田植えと稲刈りの時期には、結婚式はなく、  
その次の月に一斉に結婚式が行われる。  
年に6つの月で結婚式が行われた。

⇒今は都会では緩くなったとか。

# バネパのヒンズー寺院の彫刻画



# バネパの寺院で



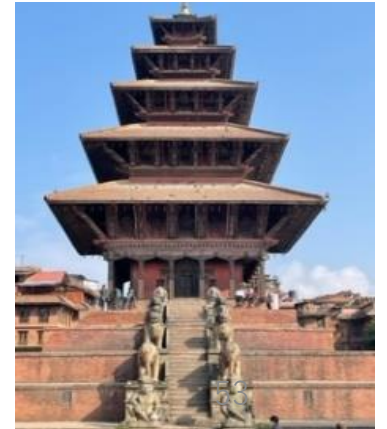
# ネパール：特徴 1

気候： カトマンズは標高1200mで、静岡から真夏と真冬を除いたような温暖な気候。  
**雨季が6-9月（飛行機飛ばず）**。インド国境のタライ平原は標高が低く、非常に熱い。

標高と住居： 標高100m（南部平野部）から2500m位に多くは住む。  
徐々に熱帯ながら平野部に移住（**感染症が減り交通の便が良く**）。  
稲作は標高1500m位まで。  
それ以上は四国ビエ、ジャガイモなど。  
一つの村で標高差900m以上もあるところが多い。

宗教： **ヒンズー教が80%、仏教が10%**くらい。仏陀はヒンズーの神の一つ。  
イスラム教、キリスト教、等。  
**仏様が生まれた国**で、ヒンズー教徒も仏様を信仰する。

**生き神様クマリ**（初潮前の釈迦族の娘から選ばれる）が  
カトマンズにいる。



# ネパール：特徴 2

カースト制度： 100以上の民族がそれぞれの言葉と衣装、文化習慣

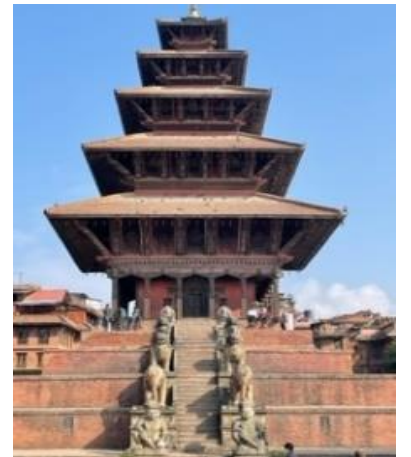
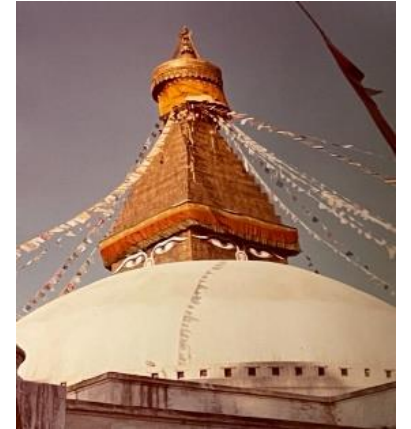
- ・ 種族によるカーストの上下意識がある。浄、不浄の意識
- ・ マヌ法典にて4大分類：司祭、武人、農民、隸民  
支配階級のインド系でアーリアン系の、ブラーマン（僧侶）、  
チェットリー（武士）が上位にいて、政治でも強い。
- ・ 鍛冶屋、服修繕屋などは低く、食事と一緒にするのを嫌う。

結婚も同じカースト間でのみされてきた。今も見合いが主体か。  
少しずつ違うカースト間の結婚も増えているようだ。

- ・ 上位のバフン等は、農作業などの下位の仕事をしない。  
指示するだけ。

日本人（アウトカースト）の私も農作業はせず、指導するだけ、  
と言われて残念だった。

- ・ ⇒新憲法上は、カーストの上下なし、とされた。しかし人々の意識に強く残る



# ネパール：特徴 3-1 食事

- ・カーストによる食事の違い：

最上位のバフンは山羊の肉だけ食べる。  
カーストが下がるごとに食べられる肉の種類が増える。  
ヒンズー教の**神様の牛は食べない**。  
水牛は食べる、豚は食べないが野生の豚は食べる人も。

- ・断食の習慣：

昔は、**週に一日断食**の習慣があった。（ヒンズー教徒）  
ただし夕方、少し野菜を煮たものを食べていた。  
**家族により断食の曜日が違っていた**。

住んでいた家のおばあちゃんは、それ以外に  
「今日は〇〇の神様の日」と言って断食をしていた。

今でも断食をやっている人もいる。特に女性は。

- ・チベットから移動してきた仏教徒は別の習慣がある。



**生け神様：クマリ**（初潮まで）

## 特徴 3-2 食事(昔)



- ・食習慣：基本は**1日2食**、**右手の素手で食べる**。今、都会ではスプーンを使う人増。  
ダル（豆汁）、バート（ごはん）、タルカリ（野菜料理：カレー味）が基本。  
昔、山の村では、**母親が家族みんなに食べさせた後に一人で食べていた**。  
午後にトウモロコシ、大豆を炒って食べていた。  
昔の村では、**主食はヒエ（ディーロ）8割食べると、子供は白い米のごはんを少しもらえた**。
- ・会食：村にはカーストの違ういろいろな種族が住んでおり、**あのカーストとはお茶も飲めない**、  
とか、食べられる肉の種類も違い、村全体としても職場としても会食はやっていなかったと思う。

**村に二つ茶屋があったが、それぞれ行くカーストが分かれていた。**



40年前の料理風景



食事をする姉妹



1年中トウモロコシを炒って食べた。



# ネパール：特徴 4

政治：

1996年頃から2005年頃まで、地方を中心に**マオイスト（毛派）が武力で弾圧。**

**果樹苗木屋の大地主も山の土地を全て奪われていた（10年以上？）。**

**命の危険から、地方の多くの者が首都に移り、外国に出稼ぎに。**

2008年、王政から連邦民主共和制に移行した。

2022年秋に総選挙が行われ、インド寄りの党から**中国寄りに。**

**中国の投資は圧倒的に多く50%占める。政治的影響も強い。**

# ネパール：特徴 5-1

## ・教育

40年前は、山の村では女の子はせいぜい小学校に半年通って文字の読み書きを覚えればよいとも。  
**1950年の国民の識字率は、2%だった。** 現在、15歳以上の識字率は、男72%、女45%。

2015年に**教育無償化**、8年生まで。しかし、**教員や設備が不十分**（ガラス窓なく板の窓）。

**小学1年生の入学率：97 %**

**小学1年生の落第率：12.8% 中退率：4.8%**

**6-8年生の就学率：88.9%（8年生に至るのは76%とも）**

**9-10年生の就学率：68.1%** 10年生後、中学卒の試験

**11-12年生の就学率：24.7%** 12年生後、**高校卒統一試験**

山間部の田舎では、**5年生までしかない学校が多い。**

高額な教育費を払っても、**英語で全科目教える**  
私立の学校に入れて学ばせようと親は頑張る。（特に都市部）

⇒ **ネパール語学習がおろそかに**

**全科目を英語で教えられるネパール人の教師がいる。**

体育、音楽、図工がない。

日本の援助でトイレが去年できた山の学校も：2022年。



1982年 ボジプールの小学校

# ネパール:特徴 5-2

## ・教育

12クラス終了時の高校卒業全国統一試験に合格しないと高卒として大学に入れる資格は得られない。  
⇒10クラス終了時の中学卒業試験も同様、高校に上られる資格になる。

都市では、朝クラス、昼クラス、夕方クラスがあり、大学生は朝授業、昼仕事もやっている。

大学に理系が2割と少ない。 ⇔ 高校までの数学・理科教育の問題  
⇒IT学んだ優秀な学生は欧米の企業に採用に（日本も人材紹介会社が大手企業向けに）  
\* インドでは理工系学生が日本の15倍ほどもいる

8割が文系（management、教育など）  
⇔ 輸出できる製造業がない。

農学部は0.3%のみ。 ⇒ 農業振興にネック。

卒業しても就職先がない。コネも必要。

⇒ 大卒が外国に単純労働(特定技能など)に。

大学教育への国の予算が低い



# ネパール：特徴 6-1 医療

## 40年前：

- ・ **山の村**（町から歩いて2-3日）に**医療関係者（医師、看護師、産婆）はいなかった。**
- ・ イギリスの**医師のボランティア**カップルが村々を廻って**医薬品を配っていた**そうだ。
- ・ **子供を産むときはお婆さんが鎌を焼いてへその緒を切って、助けてくれた。**
- ・ **行きつけの茶屋のおばちゃんが、子供を産むときに亡くなった。**
- ・ **重病人が出るとある山奥の村から5日間病人を背負って町の病院に連れて行った話。**
- ・ **ボジプール中心地で急病人（心筋梗塞など）が出て70万円くらいかけてヘリコプターを呼んだ。**  
病人騒動の間に、その家に泥棒が入って財産を盗んだとか。
- ・ **ある村を歩いていると、若い女性の病人が病気でもう亡くなる（祈祷師の判断）と言われ、家族親戚が病人の周りで泣いていて、死ぬからとご飯を食べさせないでいた。**  
同行の大地主が食べさせれば治るとアドバイスし、のちに治ったらしいとの話。
- ・ **私が長らく下痢で痩せ、お婆ちゃんから虫下しの薬をもらって飲むと長いサナダムシが尻から。**

# ネパール：特徴 6-2 医療

## 現在：

- ・ トレッキングガイド（年収20～30万円位）の妻は息子の**出産は10万円**かけて病院で産んだ。
- ・ **家族の重大な手術、入院で家や土地を売って治療費にしたという話。**
- ・ 60万円で手術しないと助からない時、村中で相談して、金を集めるのは無理だから、と  
⇒ **村中で神様に、天国に行けるよう祈った。**
- ・ 大きな病気でインドで1か月以上**入院**し、家族がひとり付き添い。  
**食事、寝具、輸血は自己調達。**
- ・ 医師があまり検査せずに**症状を聞いて、診断、処方する。**
- ・ 前払い。

# ネパール：特徴 7 現在

社会保障：国の負担は少ない。政府予算の3.2%のみ（日本は4割ほど？）

健康保険：加入者は裕福な1-2割？

⇒ほとんど自己負担。高額療養費保険はない。

⇒重大な疾病には補助が少し

- ・がん患者が200万円程治療にかかり、国の補助は10万円程。

- ・血液透析は3-6か月間だけ無料

失業・介護保険：なし

年金：月に4,000円程度。公務員だけとの話も。

公務員の勤続可能期間：30年間？

定年年齢：大学卒業後に就職して50代前半に定年退職となる人も。



# ネパール：特徴 7.2 現在

公務員の**最低賃金**：2万7千円 (27,000Rs)

⇒ 今年3万5千円 (35,000Rs) 例：公立学校の先生は**3万円**

民間の最低賃金：**1万5千円**

例：私立学校の先生の給与は2万円だけ

ホテルに泊り込みで働く20歳の女性たちは月給たった1万円だった。

月給3万円でも通勤費用は支払われず、残りはわずかとぼやき。

月給3万円以上もらう人はほとんどいない、との話。

カトマンズで家族4人が生活できるためには月に5万円必要という

⇒ 夫婦共稼ぎでも生活できない ⇒ **外国に出稼ぎに**

週休二日制がない：公務員のみ2022年春に導入。民間は反対が多く、却下。



# ネパール：特徴 8

経済：

- ・ GDPが10年で2.5倍に。うち3割位が外国出稼ぎからの送金（現在）

外国出稼ぎ：毎日1,000人が中近東などに出発。=36万人/年（？）200万人が外国で働く。  
140か国以上に。毎日5-6人の死亡報告とも（年間1,000人以上）。

土地高騰：カトマンズで土地が4年で2倍に 地方都市では20年で100倍との話も

⇒ 銀行利子が10%以上 ⇒ 銀行と不動産業が栄える

中央年齢23歳（都市は少子化）：日本は平均年齢48歳

他：

携帯は普及（山間部でも結婚相手探しはアプリで）。パソコン少。  
車の関税200% = 外国車は3倍の値段に。大渋滞のため？

5-6年前まで日に14時間も停電があった。  
高速道路・地下鉄なし。南の平原で初の鉄道。





# ネパールの課題

1. **輸出産業が乏しい**（輸入が輸出の9倍）
  - ⇒ **就職先がない**：不動産、銀行、携帯会社のみ発展。
  - ⇒ **外国からの投資が少ない**：インフラ脆弱。祭りが多く、長い。
2. **外国に多くの若者が出る。50-60万人/年。**
  - \* 出稼ぎ送金がGDPの27%、（一世帯当たり年8万円）
  - ⇒ **高齢者の孤立。暖かい家族文化の消失。**
3. **農村の過疎化。都市では少子化。土地高騰。**
4. **社会保障が乏しい（健康保険、年金）。失業・介護保険なし。**
5. **中国の影響**：政治、経済（投資）、宗教（チベット仏教）



# ネパールのよいところ

1. **家族や親戚の深いつながり。**

祭りが多い。長期休暇。

結婚式・一周忌など大勢集う。踊り好き。

2. **英語力**： 私立の小中高では全科目英語で教える。その先生がいる。

3. **国際性**： 世界140か国くらいに在留者がいる。

4. **若者が多い**： 23歳以下の**若者**が人口の半分。

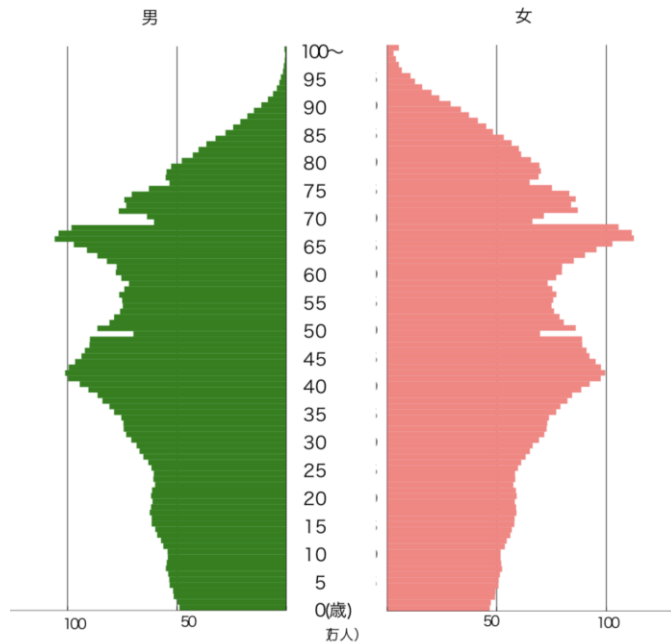


# 生産年齢人口の減少は2010年から

ネパールでも少子化が始まっている

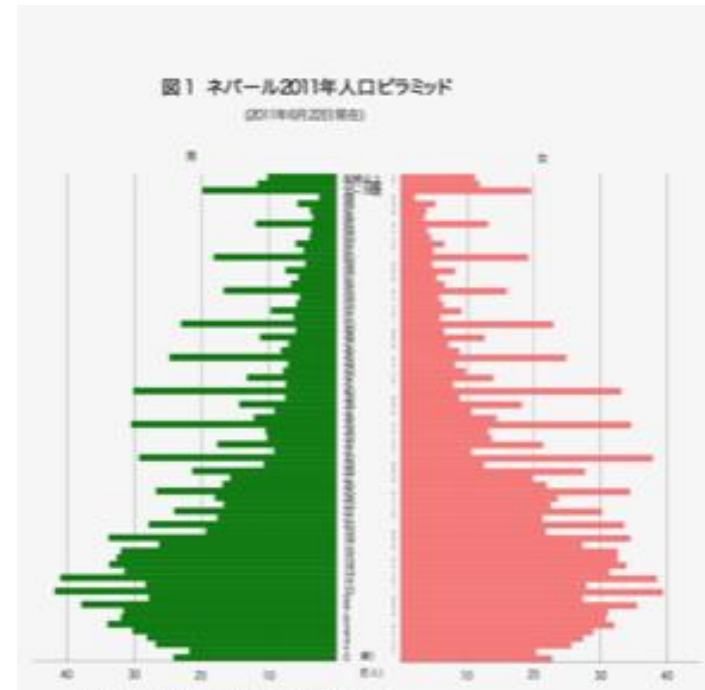
## 人口ピラミッド 日本

図3 日本 2015年人口ピラミッド  
2015年10月1日 現在



平均年齢**48歳**

## 人口ピラミッド ネパール



中央年齢**23歳**(ネパール)

平均年齢**28歳**(インド)

## 日本の移民受け入れはとても低い

### 各国の移民割合 (2021) %

カナダ	21.3
ドイツ	16.2
英国	14.0
米国	13.7
フランス	12.9
日本	2.3

## 移民受入れが多い国 ⇒ 経済が発展 賃金上昇

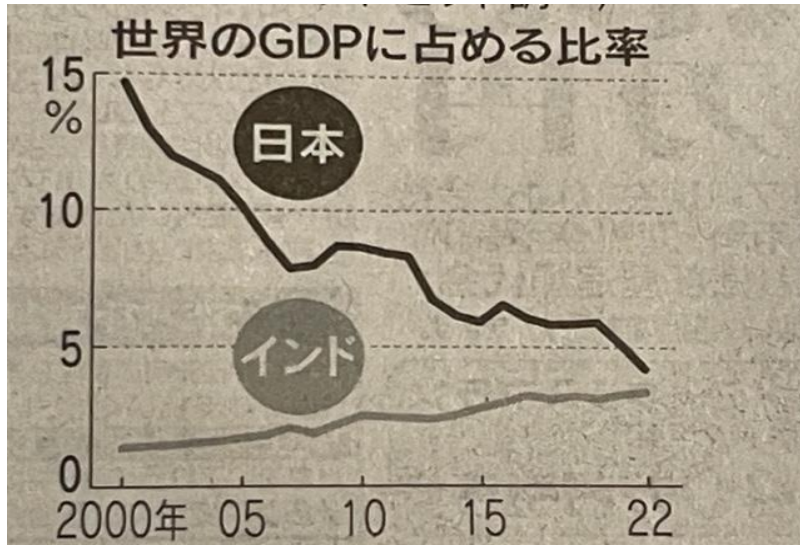
国	人口	出生数/年	移民・難民受け入れ、賃金など
日本	1億2500万	74万?	<p><b>初任給：スイスの3分の1</b></p> <p><b>時給：米国の3分の1。豪州の2.5分の1</b></p> <p>インドネシアで介護1000人募集し、100人のみ応募 難民受け入れ20人程/年 のみ</p>
ドイツ	8000万	80万	<p><b>移民受け入れ推進</b></p> <p><b>難民67万人受入れ</b>（2016年末時点）</p>
カナダ	4000万		<b>50万人/年の移民</b> を受け入れる
UAE	1000万		<b>90%が外国人労働者。先進国。</b>

# GVP推移：1980～2022

日本：20年間伸びず

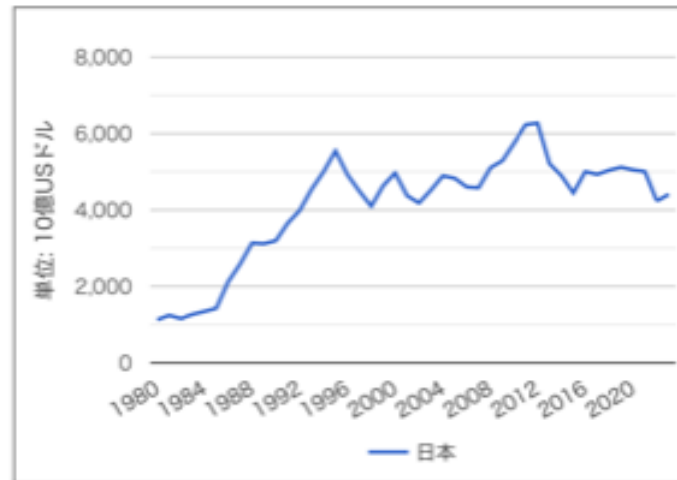
ネパール：20年で5-6倍

GDPの世界での比率：2000年から



日本の名目GDP(USドル)の推移

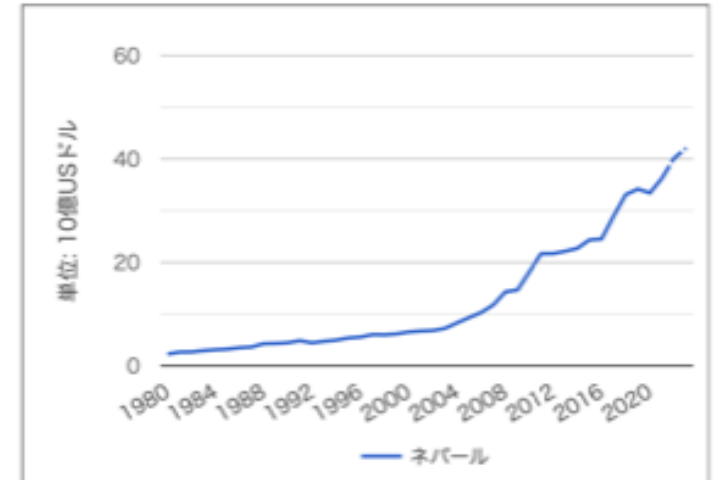
▶ 当年の為替レートにより、USドルに換算している。



日本は給与が30年間伸びず

ネパールの名目GDP(USドル)の推移

▶ 当年の為替レートにより、USドルに換算している。



日本のGDP比率は3分の1に急減  
20年前日本はドイツの2.5倍だったが  
1人当たりGDPは世界31位

欧米、世界の給与が上がり  
日本に働きに来る魅力が落ちている

# ネパールから見える日本の課題

1. **低賃金**（先進国で）：**30年間、GDP、給与が上がらず、円安。**

⇒ **一人当たりGDPは世界31位**

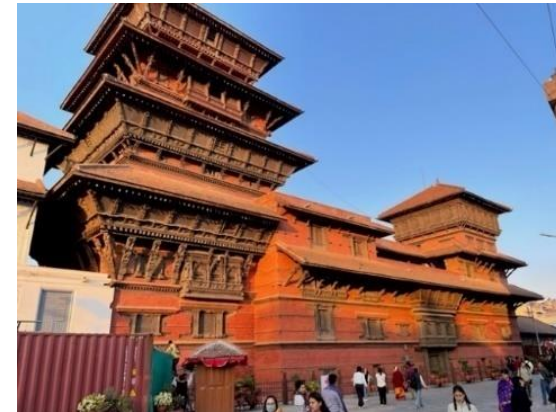
⇒ ネパールへの**投資が減った**。中国から50%、日本は0.8%

⇒ ネパールへの**日本人観光客が減った**。特に**若い人**。

2. **日本語習得に2年以上かかる**：**漢字が2000も**

3. **難しい就職**：高い日本語能力を求める（**N1かN2以上**）

4. **英語ができない日本人**、日本社会



# 日本の対応提案

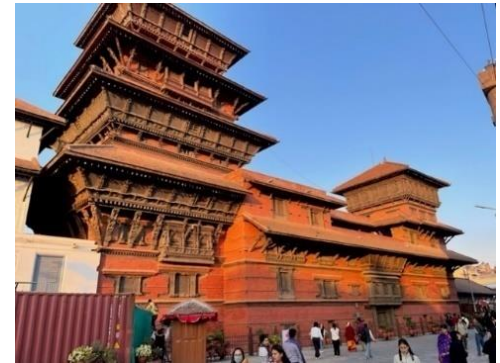
1. 留学生への奨学金の拡大（一定期間就職を前提に）  
⇒ より多くの留学生の受け入れ。

2. 働く外国人への日本語教育の推進。  
夜間、自宅でオンラインで学べる体制を

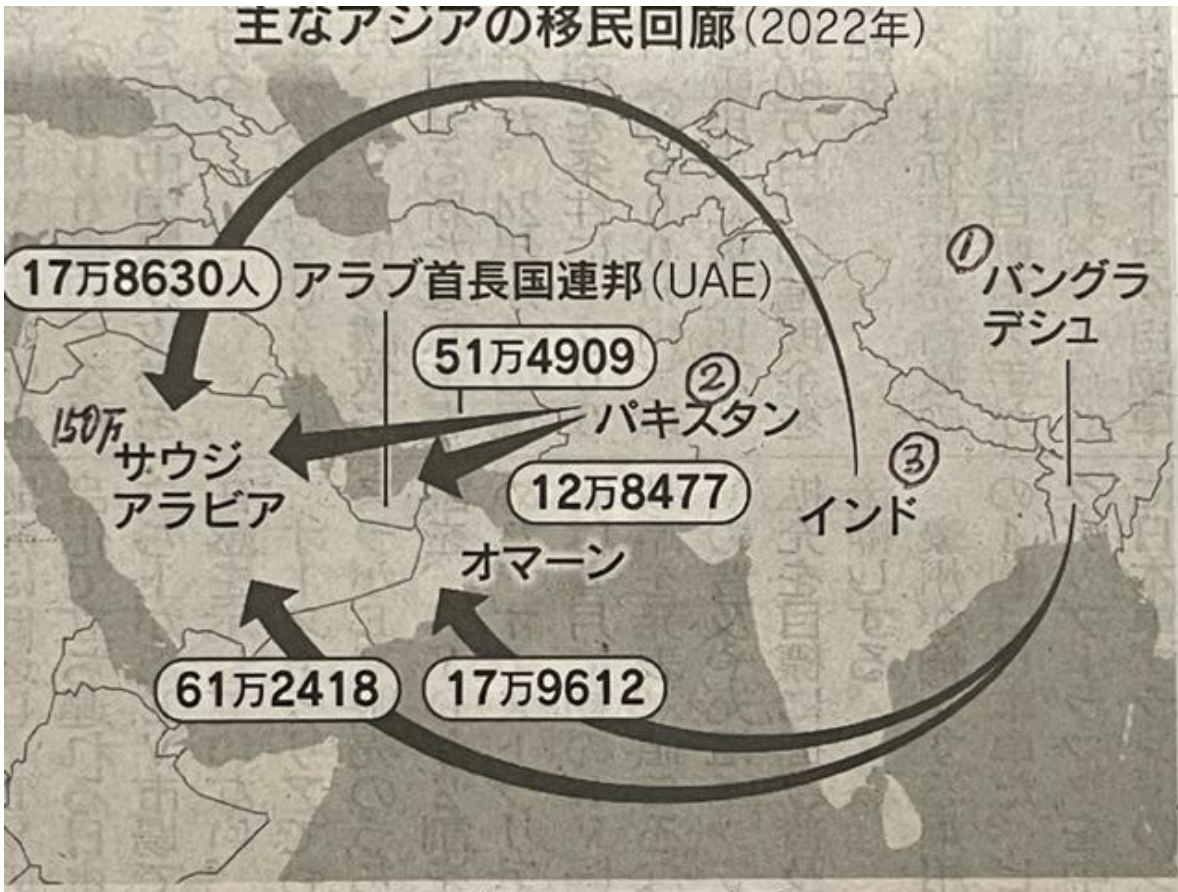
3. **英語、日本語、母国語の安価なインターナショナルスクール設立**

4. 日本の英語教育を幼稚園、小学校1年生から（**教科書に英語併記**）

⇒ 家族で長く生活しやすい日本に







**ネパールからの出稼ぎ：人口比率は南アジアで突出。**  
 200万人が 140か国以上で働く。在日14万人。  
 GDPの3割ほどが出稼ぎ送金による。

GDPの3割を超える送金：トンガ、サモア、キルギス

アジアの新規出稼ぎ：464万人（2022年）  
 ・バングラデッシュ：113万人で最大  
 ・フィリピン：82万人（2019：160万人）

**ネパールも下記と同様の出稼ぎ先傾向**

**サウジアラビアの受入れ**  
 ・バングラデッシュから：60万人超  
 ・パキスタンから：50万人超

**マレーシアの受入れ**  
 ・バングラデッシュから：5万人超  
 ・インドネシアから：4万人超

**欧米の受入れ：米国、英国、カナダ**  
 ・インドからが最多

**米国のハイテク技術者受入れ**  
 ・インドから：20万人（コロナ前2019年比34%増）

多くの送金を受けた国  
 1. インド 2. 中国 3. フィリピン

# ネパール： 外国に飛び立つ若者たち



協力隊時代のボジプール  
ダワのパダムさんの娘  
ニマちゃんと祖父

40年ぶりに再会した当時7歳の子：ニマちゃん

パダムさんは40年前、私のカウンターパート。

9か月間、愛媛県の果樹試験場で研修

パダムさんの娘のニマちゃんは結婚して女の子が生まれてすぐにイスラエルに介護の仕事で行った。

15年働いて帰国。娘は親に預け、5年に一度だけ帰国できた。

イスラエルに行くのに言葉は2, 3言しか知らずに出発した。

独り住まいの80-90代の老人宅と一緒に住み、半年で言葉はできるようになった、娘のようにかわいがってくれ、歌ったり踊ったり、とても楽しかったと。

月に15万円ほどの賃金だった。（住宅費、食費不要）

日本に特定技能の介護で働きに来ている人より幸せそう。

# ネパール： 外国に飛び立つ若者たち



パダムさんの次男：

・奨学金でフロリダに留学、勤務している。

会計の仕事をしながら、ITをオンライン授業で受ける。

ITを仕事にしたいそうだ。

ネパールのダサイン、ティハールの祭に合わせ1ヶ月ネパールにいる。

ネパール人の奥さんもアメリカで看護師資格取り仕事をする予定。

2023年6月から半年、親のパダムさん夫婦はフロリダに行くことに。

パダムさんの長男：

40年前は生まれてまだ1年位だった。

大学院でEngineerを学び、今はネパールの山間部の水力発電の仕事をしている。水力発電はネパールの貴重な輸出産業だ。

40年前の協力隊時代にカウンターパートだったパダムさん。  
その家族と自宅前で。  
ネパールに3つの家がある。

# 外国に飛び立つ人々

- ・ポーター48歳の奥さん：3年前からキプロスに介護の出稼ぎに。
- ・イギリスで働き家族で住んでいたが、父親の介護のため単身帰国した男性：  
英国の大学で学び経理の仕事をしていたが父親が半身不随になり。ネパールは**介護問題**。  
娘は英国で勉強中で、妻と共に英国に残して。  
自身はチトワンで日本語学校と外国への人材派遣の会社で代表に。
- ・チトワンの日本語教師マダンさん  
妹と弟は福岡で各々介護と自動車整備の専門学校出て、就職。  
マダンさんは国立大出たが、就職なく。沖縄の日本語学校申請。一度入国許可もらえず、  
2023年に**特定技能の農業で群馬**に来た。**朝5時から夜9時半まで炎天下ネギなど収穫作業**。
- ・インド留学したミスラさん  
インドのデリー大学で経営を学び、チトワンで会社員として**企業の査察の仕事**を三年し。  
月給2.5万円でボーナスなし、辞めて、日本で働くため、日本語を学んでいる。



# 外国に飛び立つ人々

昔は**イギリスの兵隊**としての**ゴルカ兵**として20年ほど行くのが外国出稼ぎだった。  
第二次世界大戦で**ビルマ**で**日本兵**と戦った人も。

- ・ **チトワンのマダンさん一家の外国で働いた経験**

母親はイギリス生まれ。母の父親が**ゴルカ兵**でイギリスにいたため。

父親はバーレーンで14年間、**警備の仕事**をし月給10万円、1日12時間、休日なしで働いたそう。  
54歳位だが自動車整備の仕事を引退している。

姉の旦那さんは、**大学院出たのに仕事がなく**、マレーシアで10年、サウジアラビアで3年**運転手**。



チトワン国立公園で象、サイやワニを見る： 東西80km、南北23kmという広大な野生動物保護区

# 外国に飛び立つ若者たち



アリサさん：

- ・ネパールで**医学部合格**
- ・日本語を学び、**朝日奨学生**に合格。  
医学部はお金がかかるので、無料で学べる日本行きを決断。
- ・**日本に6年間留学**。  
2年間日本語学校、4年間ITの大学で学ぶ。  
毎日深夜12時から朝5時過ぎまで毎日5時間の新聞配達の仕事。
- ・箱根でホテルのManagementの仕事をするネパール人男性と結婚。  
彼は働きながらアメリカの大学院の勉強をオンラインで受講。
- ・**カナダのITの大学院**に入り、ITの仕事もする。夫もカナダへ。

アリサさんの兄、姉たち

- ・長兄：**成田空港**で働く。
- ・次兄：**韓国**で働き、妻はネパールで両親と住む。
- ・姉：ドイツ語を学びドイツの大学卒業。**ベルリン空港**で**経理**の仕事をする。

# ネパール： 外国に飛び立つ若者たち



アリサ・ダスさん：

両親はラメチャップ郡の山村から16,17で結婚し、カトマンズで楽器店など営みながら子供を育てた。

友人のリーツさん：

日本の保育の4年生大学卒業。

保育所で勤務。

日本語問題

：保護者連絡

違うカーストの人との結婚、親が反対⇒同じカーストの人と結婚。



ご清聴ありがとうございました。



タダパニ朝、アンナプルナサウスとヒウンチュリ



マチャプチャレ 夜明け